

令和7年度第8回自立支援協議会テーマ別部会
教育と福祉の連携について 議事要旨

1. 開催日時 令和7年12月25日(木) 10時～11時50分

2. 開催場所 まちづくり活動プラザ 1階会議室

3. 出席者 (委員) *団体名のみ記載

パルレ、浦安市肢体不自由児・者親の会「どっこらしょ」、Japan居場所づくりプロジェクト、認定NPO法人発達わんぱく会、(福) 佑啓会、(福) 敬心福祉会、(一社) こども未来共生会
浦安市こども発達センター、(福) 千楽、NPO法人アリスのうさぎ
浦安市教育センター、浦安市指導課、障がい事業課
(事務局) 浦安市基幹相談支援センター

4. 議事次第

1. 開会

2. 議題

(1) 事務局案についての意見交換

(2) 令和7年度部会のまとめ/次年度に繋げていく内容の決定

(3) 令和7年度部会スケジュール

3. 閉会

5. 配布資料

・次第

・事前配布資料：これまでの議論をまとめた事務局案

6. 議事要旨

1) 事務局案についての意見交換：今年度のゴール、来年度のテーマ設定に向けて以下、主な意見
〔福祉側が出来ることの情報提供〕

・個別支援計画を立てる際に事業所のアドバイスを付加するのは効果的と感じた。

・福祉領域で子どもたちへの支援で実践していることが情報としてあると学校も活用しやすい。

・共通のフォーム（福祉側でこんなことが手伝える等）があるとよいか。

〔アンケートの実施〕

・①アンケート実施案について①明確な目標設定や時期を決める必要がある。アンケートに記入ができないお子さんへの配慮も必要である。②子どもの意見を聞き来年度提言に繋げるのが良い。発達段階による変化もあるため様々な年代の子どもに聞くのが良いか。③アンケートが多く学校、教員、子どもへの負担への配慮が必要。④実施したからには実行しないといけない。年度で結果を出していくのが目標となると難しいのではないか。⑤学校による差が大きく各地区1校では市全体像をあぶり出せないのではないか。⑥回答を得る以上に回答者が合理的配慮を知るきっかけとなれば。⑦目的、手法をしっかりと固める必要がある。⑧子どもたち自身が意見を言って良いことや子ども

の権利条約があることを知るツールになるかもしれない。

・教育側の意見が十分に聞けていないという課題に対して、ニーズのあぶり出し、スタートとしては効果的だと思う。今年度は教育側のニーズがわからないと報告し、次年度につなげていくことが出来ればと思う。

〔学校行事への参加〕

・学校行事への参加は難しいのではないかな。

〔提言内容をまとめる〕

・市長や教育長への提言は将来の視点を入れられたらいいと思う。
・提言を本協議会で報告したら、それを次年度実施することになるか。効果的な部会の在り方について記載するのはどうか。

〔その他意見〕

・様々な事情の親子がいる。どの子どもも親もとりこぼしのない仕組みにしてほしい。保護者の意向を聞くことは本当に大切になる。

・「自立支援協議会」の認識がそれぞれ違っている。当事者が存在しないまま話し合われている。(以前は本人部会があった等)

・「福祉と教育の連携」の認識がそれぞれ違っている。
・学校側の体制を福祉側が知る必要がある。福祉側が現場の負担感のない具体的支援策を提案する必要がある。連携するには何が効果的なのか教育側の実態を知りたい。

・今年度は、次年度への取り組みとして入口の一步であると思う。

・話し合う、子どもの意見を聞く、福祉の支援をまとめて情報提供する。どれならできるのか2〜3個決めて、来年度は教育系の機関からも参加が増えると良いという話もあったが、入った中でどれなら学校で出来そうか決めていくのもいいのではないかな。

・教育と福祉の連携の具現化という話であるならば、すでに連携が取れている機関が中継役になるのが最もスムーズかと思う。

・双方、縦割りからクロスする場づくりが良い。先生が徒労感でもなく、「よかった」経験となり、他の先生や学年でも取り入れてみようと思う場面の構築が目標だと思う。

・子どもの権利を守るためにという基本的な考え方に基づいて進めることは良いと思った。

・事務局案は合理的配慮の理解がすでに統一されている前提となっているが、実際はバラバラなのではないか。合理的配慮とは何かを伝えていく、知っていく必要があると感じる。

・連携するならば、建設的な対話の場というのはどういうものかの理解も深める必要があるように思う。目的は、子どもがその子らしく過ごせる場を創っていくということである。

・言葉で意思を伝えることができない子どもたちは、保護者が代弁をする必要はあるが、意見聴取が出来ないということでは無いと思う。

・テーマの焦点化は必要だと思う。教育というよりも学校というイメージか。

・個別支援計画を共有することの話もあるが、子どもの出来ないことが共有されることが多い。良いところが共有されない。子ども本人にとってよいことか。

(→これに対して、課題が解決して将来、こうなってほしいという想い、将来像のイメージ共有、子ども本人の自信の回復、やる気を引き出すか、子どもの強みの共有、マイナスなことでも対応策が解ればマイナスではなくなる。情報をやり取りする目的であると福祉事業者から発言あり)

最後に事務局より、以下の通り本日のまとめとして：

本日の部会にて、これまでの議論を踏まえ、事務局案をたたき台として、次年度に深める取組みについての合意形成を図ることを試みたが、様々な意見があった。これまで、このような議論を行う場がなかったことから、連携の基礎の基礎がスタートできたと捉えることが出来るようにも思う。テーマ別部会は1月で終了となることから、再度、1月部会で、本日の議論を踏まえて、部会のまとめを作成することから、次月の部会で皆様のご意見をいただきたいと伝え閉会。